

ゆうき

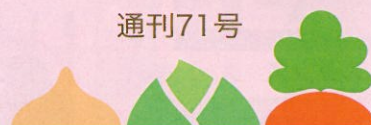


農林水産省登録認定機関・特定非営利活動法人(NPO) 熊本県有機農業研究会 発行
〒861-8028 熊本市新南部2丁目5-13 Tel096-223-6771/Fax096-223-6772 振替:01980-7-18438

2010/03 冬春号

34号

通刊71号



<http://www.kumayuken.org/>
info@kumayuken.org



特集：ゆうきフェスタ2009

- * 菜の花プロジェクト・食農育部会の活動紹介
- * 九州・山口 有機農業の祭典等 イベントのご報告
- * オーガニック食クエスト“走る豚のフランス料理”
- * 第10回通常総会報告
- * ポストカード、出版物のご紹介



熊有研恒例イベント“ゆうきフェスタ2009”。映画上映や料理教室、講演会等もあり、たくさんの方にご来場いただきました！詳しくは2～5面に！

身土不二

公立大学法人熊本県立大学理事長 荻原 義典（みづもと しのぶ）

素敵な名前のコラムへの執筆依頼を受けた。食同源と並んで風土との一体性で人の周りを見回そうという環境観が身土不二にはある。「地域に生き世界に伸びる」のスローガンを掲げる熊本県立大学も同じ思いである。

昨秋、私どもの月出キャンパスは「ゆうきフェスタ」で賑わった。祭りが来るとキャンパスの主役・学生の心も動くだろうと期待した。わたしは学生時代を含め東京にある農業大学で37年を過ごし、今はもっぱら大学の経営を担当している。37年の間には、生産農業から生活農業、更に生命農業への進化胎動をつぶさにみる事が出来た。わたしの専門である造園学は生産農業から生活農業への、栄養学は生活農業から生命農業の架け橋だと思いつつながら。

生産・生活・生命を3辺とする三角形を頭に描くなら、最初は、生産の辺だけが極端に長い不等辺三角形、その後は生活が伸びて生産に近づき先の尖った二等辺三角形となり、21世紀になつては生命の辺も伸びて正三角形時代を迎えようとしている。また、農業に限らず産業の振興では技術とともに経営が重要だと言われる。だから技術革新や経営改革という言葉がいつも新聞誌上をにぎわしている。不景気になればなるほど、この二つでなんとかならないかと躍起になる。果たしてそれで良いのだろうか。わたしはそうは思わない。ここでもトライアングルが重要だと思う。三つ目に文化・カルチャーを加えた三角形である。様々な産業の中でもとりわけ農業はアグリカルチャーであり、文化の礎は風土なのだから。

これから年を追う毎に市民の関心を集めるのが「ゆうきフェスタ」だと思う。会場に来た人に、生産だけでなく生活と生命までを、技術だけでなく経営と文化も感じさせる挑戦に邁進されることを期待したい。

《しんどぶじ》…身体は土と離れてはあり得ないという。農業を営むひとたちにとって大切なキーワードとなっています。



キッズダンス

終日にわたって演奏やダンス等にぎやかなステージが繰り広げられた。お買い物途中、足を休めてリズムに乗る人の姿もあり、会場の楽しい雰囲気を盛り上げてくれました。

学生ロビーでは、ポスターや資料のサンプル、パンフレット等がところ狭しと並びました。



屋内展示ブース

熊本オーガニックの祭典 ゆうきフェスタ 2009

2009年12月6日(日) 10時～16時

会場：熊本県立大学（熊本市月出）

テーマ：有機の学校



野菜ソムリエ教室

野菜ソムリエの資格を持つ講師が、様々な野菜の上手な保存の仕方や意外な特徴、おすすめのメニュー等について、現物を調理しながら説明。参加者からも感想や質問が飛び交っていました。

◆ たくさんのご来場ありがとうございました！
毎年恒例の熊有研のイベント「ゆうきフェスタ」が、2009年12月、熊本県立大学で開催されました。10年目を迎えた今回は、会場をがらりと変え、これまでとは一味違った企画も満載の、新たなゆうきフェスタのスタートとなりました。
これから3ページにわたって、開催の様子をご報告します。



フリーマーケット

一般から参加者を募ったフリマコーナー。紅葉の下での出店、売上げはいかがでしたか！？

◆ 新しいフェスタに向けて
09年度は、開催に向け具体的な企画を検討する場として企画委員会をつくりました。熊有研事務局、理事、出展者の方々などを含めた実行委員会メンバーの中から、若手理事の緒方健さんを企画委員長に、理事4名を含む18名で構成されました。開催までの数ヶ月、何度となく開かれた企画委員会では、これまでの実績を大切にしながらも新しいアイディアを取り込んだ、これまでは違うフェスタを模索しながら話し合いを重ねてきました。
そうして煮詰めた今回のフェスタは、多彩な企画を盛り込んだ「オーガニックの祭典」として、実行委員会全員で役割分担を行って開催することができました。



食バザー・物販コーナー

主催：「ゆうきフェスタ2009」実行委員会（内田敬介委員長、緒方健企画委員長）

共催：くまもと有機農業推進ネットワーク

協賛：松合食品(株) 熊本県農業協同組合中央会 (株)果実堂 (株)共同運輸

医療法人社団寿量会 原田アイガモ孵化場 人吉市有機農業推進協議会

山都町有機農業推進協議会 山都町バイオ燃料協議会 中重企業(株)

(有)内田安喜商店 (株)ティア (株)マルタ 大東肥料(株) (株)丸山農園

コープ学校生協 菊池農場 (株)本伝九曜紋 (有)堀内製油

後援：九州農政局 熊本県 熊本市 熊本県教育委員会 熊本市教育委員会

熊本県立大学

(順不同)

出展者一覧

- | | |
|-------------------|------------------------|
| (有)シリカファームしすい | (有)農の心と共にこべ会 |
| (有)阿蘇デザインファーム | のむら自然農園(野村哲也) |
| (株)果実堂 | (有)肥後あゆみの会 |
| まるは油脂化学(株) | 人吉市有機農業推進協議会 |
| (株)丸山農園 | 百草園・万菜村・千草会 |
| (株)緑の資産 | 松合食品(株) |
| 麦のたね | まるさ木(竹)炭 |
| 山都町有機農業協議会 | 熊本県愛農会野菜部 |
| 食と雑貨のセレクトshopゆかし | くまもと新規就農者ネットワーク |
| 野菜ソムリエの会 熊本 | 熊本県立大学 |
| 九州の食卓 | 県立熊本農業高校 |
| (有)九州有機の里 | 県立熊本農業高校 |
| 山都地域バイオ燃料協議会 | 九州農政局(消費生活課) |
| 熊本市食生活改善推進員協議会東支部 | くまもとグリーン農業推進協議会 |
| (有)くまもと有機の会 | (株)くまもと産直クラブ |
| 坂本幸誠(心の会) | 中重企業(株)九州支社 |
| 秀明自然農法ネットワーク | コーラルインターナショナル(株) |
| 地産倶楽部((有)つのだ青果) | NPO法人パーマカルチャーネットワーク九州 |
| 東海大学農法研究部 | くまもと有機農業推進ネットワーク |
| 厚生連 | 熊本県有機農業研究会(食農育部・ |
| ポップコーヒーズ | 種苗部・広報部・青年部・菜の花プロジェクト) |
| (社)農山漁村文化協会 | |

おつかれさまでした!これからもよろしくお願いします!(記載は順不同)

ステージ企画

イベント終盤には、抽選券を手にとたくさんの来場者が集まり、熱気あふれる抽選会が行われた。景品はカレーセットや国産菜種油、そして1等はなんと有機米30kg! 当たった方がうらやましいー!



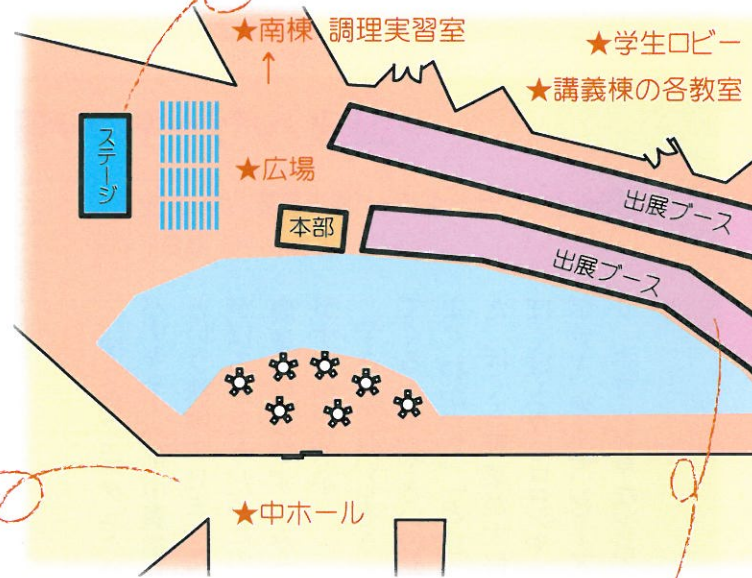
有機食品などが当たる抽選会

次のページにもぜひお越しください!



安武信吾さん講演会
「食卓が変わる、子どもが変わる」

「食卓の向こう側」でおなじみの安武信吾さんが、自身の体験を交えながら食、そして家族の変化について講演。時折聴講者からの涙声が聞こえたのが印象的でした。



広場の出展ブース

会場中央の広場では、新鮮な有機野菜や無添加の加工食品等の販売をはじめ数々の出店ブースが立ち並び、一日中たくさんの来場者であふれていた。美味しくて安全・安心なお土産を手にお祭り気分全開!



わら細工体験コーナー

◆終了までにぎやかに!

会場の熊本県立大学では、屋外の広場や屋内の教室などを活用させていただき、販売ブースや展示ブース、体験コーナーをはじめ、講演会や料理教室、映画上映など、多彩な企画が目白押しでした。太陽ののぞく空の下10時に会場し、間もなくたくさんの方にご来場いただき、イベント終了前の目玉企画・有機食品などが当たる抽選会まで、老若男女多くの皆様にお楽しみいただけたようでした。出展数46団体、来場者数約1500名のにぎやかなイベントとなり、熊本の有機力をアピールすることができたと思います。

◆「大学」での開催

これまでとは違う会場、これまでにない企画・・・百点満点とはいきませんでした。が、天気にも恵まれ、幅広い年齢層、特に若い方にたくさんご来場いただけたことが、今回のフェスタでの一番の収穫でした。

今回得たものと、見えてきたいろいろな課題をうまく生かしながら、今年は次のフェスタに向けて、動き出します。また来年、お会いしましょう!

今回のフェスタでは、青年部で就農体験者が語るミニパネルディスカッションとして、「Yes, 有機やん!」を行いました。

パネリストとして、杵島剛士さん(就農3年目)、佐藤真実さん(就農4年目)、佐伯明香さん(就農5年目)、寄元和浩さん(就農15年目)、コーディネーターは青年部部長の草野英雄さんでした。



■時間もあつという間に

お客さんが本当に来てくれるかどうか心配でしたが、当日蓋を開けてみたら会場は満員。草野部長の名コーディネイトのもと、それぞれの農業に対する思いや手法、夢などを熱く語ってもらい、3時間もの長い時間があつという間に過ぎてしまいました。

ただ、来て欲しかった新規就農希望者が思いのほか少なかったのが残念で、一方ベテラン先輩にたくさん参加していただきました。大先輩たちの感想はいかに???



かるべけいこさん親子料理教室



【かるべけいこさんと受講者の様子】

数ある企画の中でも人気だったのがこの親子料理教室。20組の親子を前に、「私のレシピには調味料の量は書いていません。味見をしながら自分の味をだしてください。」というかるべけいこさんの自然体の説明がとても素敵でした。

メニュー

さといもごはん きゃべつと厚揚げの胡麻汁 生椎茸とブロッコリーの豆乳クリーム煮 蒸しパン

有機農業映画上映

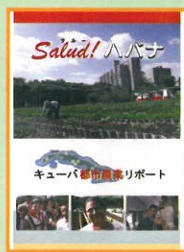
サルー ~Salud! ハバナ~キューバ都市農業レポート特集!~

○映画『Salud! ハバナ~キューバ都市農業レポート』を見て

吉松小 2年 福田十平衡

「ゆうきフェスタ」で「サルー!ハバナキューバ都市農業レポート」という映画を見ました。キューバがほろびそうだったのに、有機農業でほろびずよみがえったのがすごかったです。やさしいおいしいでした。出てくる人が「やさしいおいしさがよくわかった。」と言っていました。ぼくはトウモロコシやナスビ、カボチャ、オイモ、ピーマン、キュウリ、ホウレン草などが大好きです。

ホールや教室を使って、終日にわたり国内外の有機農業関連映画の上映会も開催しました。その中の1作品、キューバの映画をご紹介します。200万都市が有機農業で自給。音楽、ダンス、野菜だけではない、キューバの新しい顔。それは、都市農業。町のいたるところに畑を作り、野菜や果物を無農薬栽培が行われる。市民の食料を都市の中でまかなっている。一体、どうして?なぜできるのか?食の安全、地産地消、自給率の向上、省エネルギー、農的生活、新しい雇用、スローライフ、コミュニティづくり...持続可能な社会のヒントがここにあります。



第50回農業コンクール大会受賞者のご紹介

山都町長 田 西山幸司 典江さん

平成22年2月4日に熊本市内の熊本テルサにおいて、平成21年度熊本県第50回農業コンクール大会が行われた。有機農業としては山都町の西山夫妻が受賞。

特別賞

日々「カイゼン」の有機農業

西山幸司さん(40)、典江さん(42)＝山都町
典江さんの父俊六さんの引退を前に2007年、会社から農業の道へ。県農業大学校などで研修し、09年1月に移住を決意した。
先代から受け継いだ化学肥料や化学農薬は一切使わない有機農業について「安全安心が求められる時代。消費者にも大変喜ばれている」と幸司さん。生協やスーパーと直接取引するほか、県内の販売所でも販売している。
経営発展のため、機械や設備の整備技術を自ら習得し、インターネットで安価な機械を調達して改造するなど、会社員時代から得意だった「カイゼン」に日々取り組んでいる。
○タマネギ、コメ、ジャガイモ。☎080(5375)2480。



【熊日新聞 平成22年2月4日掲載】

フォトギャラリー開設のお知らせ

熊有研が主催しているイベントや研修等で撮影した写真を、熊有研のHPにフォトギャラリーとして公開することになりました。まだまだ発展途上ですが、皆様の活動を記録し公開していきたいと思っておりますので、ぜひご覧ください。



くまゆうけんフォトギャラリー
<http://www.kumayuken-photo.com>

菜の花プロジェクト報告

菜の花プロジェクト・間司



09年は2月山都町の菜の花りーダー学習会に始まり、5月の有研全体での学習会、9月の植木町での県の食育祭への参加、さらに、12月ゆうきフェスタへの参加とプロジェクトとしても大忙しでした。なかでもBDF精製機や菜種搾油機を備えた山都町をはじめ、天草、植木、宇城の各地で、廃食油の回収、菜種の作付け、BDFの利用と普及など地域活動の定着を目指してきました。

■菜の花の輪を広げよう！

今までは、自給が主な作付け目的でしたが、10年度には面積も拡大し、収穫方法などの技術研修も考えています。皆さんの菜の花の輪への参加を！

食農育部会

活動報告

お知らせ

食農育部部長 市来眞

医食農活動は熊本有機農業の原点。自然の恵みから育ったものをいただき、食することとで私達は健康を保てる。

数年間活動を休んでしまった食農部、09年より食農育部として再開しました。先輩達が培ってきた食育活動を活用させていただきながら、10年度は農作物の手作り加工と茶育を組み合わせて、体験型の活動を進められたらと思っています。

今日まで各々が育み培ってきたものを活用し合ひましよう。そして次の世代に伝えていきたいと思います。



■有機農業体験型講座

- ①大豆撒きから味噌作り
- ②菜園づくりの先達の知恵の伝承、交流
- ③有機作物の勢いのある栄養価やおいしさ。
- ④食育全国大会(佐賀)参加 等々

学んでみたい皆さん、熊有研の事務局にご一報ください。待っています。

かたらんね！有機農業

17回火の国九州・山口 有機農業の祭典報告！

青年部 安藤光一

2月6日から7日にかけて、九州・山口有機農業の祭典に参加してきました。会場は福岡県朝倉市、初日は『食卓の向こう側』でお馴染みの佐藤弘氏の講演と、「有機農業でどう暮らす？」をテーマに、ネルデイスカッション、その後は温泉で汗を流して、夜は福岡の生産者方々の食材をふんだんに使った豪華料理が並んだ懇親会と夜なべ談義、2日目は種苗交換会と種取りに関する講演会、といった内容でした。

今回、私が一番印象深かったのは種苗交換会です。例年、2日目の朝食の後、二日酔いの頭を抱えながら(反省&失笑)ひっそり？と行われていましたが、今回は、長崎県雲仙の岩崎政利氏の講演を同時に聴くことができました。25年間、現在50種類以上の様々な種を自家採種で守り続けておられます。種は買うのが当たり前でやっている自分の生産者としての取り組み方を考えさせられました。が、種を播かないことには何も始まりません。しばしの休息が終わって、私もまた、熊本の大地に今日も種を播きます。

●走る豚 - フランス料理『アスペルジュ』 -



●アスペルジュ

熊本市坪井町5-4ドルハウス1F
TEL:096-351-6030

「並木坂通りからちょっと入ったところ」との情報を頼りに、現地での聞き込みを経て辿り着いたフランス料理店『アスペルジュ』。さすが限定流通のブランド肉『走る豚』なだけあって、おいそれとありつけるものではないらしい。奥まったビルの袂、小さなパン屋さんのさらに奥に、その異国風の扉はあった。

「メニュー読めるかな…」との心配もつかの間、肩肘張らない雰囲気店内にほっと安堵する。黒板に並ぶメニューの多さにつられて、コースにプラスして自家製ピZZAを注文。しかし思いの外にどんどん運ば

れてくる料理で満腹になった頃、メインの『走る豚』はやってきた。サイコロステーキの形状で、さっぱりとしていて食べやすい。「野性的に育てた肉＝固い」というイメージを見事に覆す柔らかさ。追加のピZZAともども、しれっと別腹に収まってしまった。

とある口コミ情報によると、駕町通りにあるイタリアン『ビオ・サルデー』でも『走る豚』が食べられるという。野菜も県内産無農薬野菜だというし、ぜひ取材してみたいお店だ。共食いとなる危険を冒しても、挑みたいものであることは間違いない。

〈広報・松本恵美 記〉

■10月～2月活動報告■

- 10/03(土) 第3回食育推進県民大会
- 10/17(土) 第5回理事会
- 10/18(日) 臨時判定委員会
- 10/30(金) 第4回JAS講習会・認定事業者の集い
- 11/16(水) 臨時判定委員会
- 11/25.26 FAMIC事業所調査
- 12/06(日) 第10回「ゆうきフェスタ2009」
- 12/12(土) 第6回判定委員会
- 12/19(土) 第6回理事会/ゆうきフェスタ反省会
- 01/21.22 審査員・判定員研修会
- 01/23(土) 第7回理事会
- 01/31(日) 第1回判定委員会
- 02/04(木) 内部監査
- 02/05(金) 会計監査
- 02/06(土) 火の国九州・山口有機農業の祭典
- 02/16.17 検査員研修会(農水)@熊本
- 02/13(土) 第8回理事会
- 02/20(土) 第10回通常総会(『未来の食卓』上映)
- 02/27.28 グランメッセエコライフフェア(菜の花プロジェクト出展)

□■今後の予定■□

- 03/07(日) 第2回判定委員会
- 03/09(火) 第1回専門委員会
- 03/19(金) 第1回JAS講習会(有機加工食品・小分け)
- 03/25(木) 第1回JAS講習会(有機農産物)
- 03/27(土) 第1回理事会
- 04/11(土) 第2回判定委員会
- 04/19(土) 食育セミナー 安部司氏講演会
- 05/22(土) 第2回理事会

素敵な種と花のハガキができました 分けて欲しい人は種苗部に連絡を

種取仕事人
和田ユイ子さん



この黄色い5弁の花は豆科ですね。でも何の豆か分かりますか？実は肥後小豆。在来種です。

種取仕事人
森田良光さん



花卉が開けば観葉植物にもなりそうな蕾。ショウガです。冬に、体を中から温めましょう。

2月20日の総会で承認されました

2010年度総会報告



2010年2月20日(土)、県立大学小ホールにて第10回通常総会を開催しました。

緒方理事が総会の成立を報告し、議長に草野英雄さん、議事録署名人に真田一廣さん・吉見孝徳さんを選出して開会しました。

審議事項は、09年度報告・決算、10年度計画・予算案に加え、定款等変更、役員改選の6議案。会費や認定料金の改定を含む提案もあり、丁寧な議事進行が行われました。質疑応答では、資材講習会の具体案や人件費の不足に対する懸念、また、団体会員に関する決まりごとの詳細について質問が出され、今後理事会等で検討していく旨の応答を了解し、全議案承認されました。

また、今回の総会では、熊本県農林水産部、くまもと有機農業推進ネットワーク、JA熊本より来賓を招き、県には「熊本県有機農業推進計画」を紹介いただきました。2010年度は要の年として、県との連携のもと、この「計画」に沿った具体案の策定に力を注ぎ、新規就農者支援や、10年後の有機農業の進展に向け中長期計画を検討することが確認されました。

今年度は理事改選の年ではありませんが、間司さん・だい典子さんが退任され、間澄子さん・安藤光一さん・菊池泰宏さんの理事就任、高岡慶蔵理事の承認が行われました。退任のご挨拶等は、次号ご紹介しします。

なお、同時企画として、ドキュメンタリー映画「未来の食卓」上映を行い、農薬の影響が疑われる癌の多発を背景に、小学校の給食を有機食材に変えたフランスの小さな村の取り組みに見入りました。

文責/事務局・吉川



読んでみませんか

熊有研の有機JAS判定委員の
片野学氏と安部司氏の新刊！



有機農業研究の東海大学教授、片野学先生が「雑草が大地を救う食べ物育てる」と題して新刊を出されました。雑草の大事な役割を説明してあります。是非ご一読を！

発行・芽生え社/1050円



外食・加工食品に含まれる添加物の実態を明かした『食品の裏側』は、60万部の大ベストセラーに。そして、その続編とも言える『なにを食べたらいいの?』が発売に！！

発行・新潮社/1260円

事務局info!

経理担当の三浦千世(みうらかずよ)です。3月をもって退職させていただくことになりました。

百草園&万葉村をはじめ事務局メンバー・理事のみなさんにはご迷惑をお掛けすることもありましたが、大変お世話になりました。熊有研を通して、熊本の有機農業の歴史や長年その土地に根付いた有機農業に取り組む方々、有機農業・農産物普及のために熱く活動しておられる方々との出会いもあり、その熱い思いに圧倒されるばかりでした。

また、熊本の伝統野菜の種取り活動や自家採取の種から栽培した野菜の美味しい料理に出会えたことも大きな収穫でした。

今後も引き続き自分が食べる米・野菜は栽培していこうと思っています。今後もみなさん御指導よろしく願います。ありがとうございました☆

編集後記



このタイトルは、熊有研会報第1号から使われていたものを縮小したものです。

▼部長交代です。新部長は出田さん、菊池さん、松本さんという若い3人のトロイカ体制。世代交代を視野にいたれた斬新な体制で楽しそうです。応援してやってください。

次回から一面には、種苗部に写真提供をお願いして、タネクイズを掲載します。

種袋の裏側を見たことありますか？オーストラリア産とかアメリカ産とか書いてあるのものがほとんど。日本の食料自給率が先進国の中では異常に低い40%ということはよく知られていますが、種の自給率はデータすらない状態です。相手がバイの食料券の予定。景品はレストランの食事券の予定です。(はぐますみこ)